

グリーン四国

No.1267
2025年
10月号

就業体験実習で大学生が国有林体験

【詳細は2頁】



高知中部署管内_自念子(きのこ、トリカブト)

目次

・ 就業体験実習で大学生が国有林体験	2
・ 秋の「緑の募金」街頭募金活動～豊かな緑に恵まれた社会の持続～	7
・ ワンツーツリーフォレストin小田深山	8
・ 刃物の取扱い研修を実施	9
・ 「高知の自然！大発見すごろく」を活用した森林教室を実施	10
・ 津野町2校合同森林・木工教室を開催	11
・ 宿毛小学校で森林環境教育を実施	12
・ 現場からの便り	13



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

T E L 088-821-2052
H P <https://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

就業体験実習で大学生が国有林体験

四国森林管理局では、国有林内での体験実習を通して就業意識の育成と国有林野事業への理解を深めてもらう目的で、就業体験実習（インターンシップ）を年2回実施しています。

本年度（夏期）は、徳島森林管理署、香川森林管理事務所、愛媛森林管理署、嶺北森林管理署において実施しました。

徳島森林管理署

徳島森林管理署では、立正大学（3年生）と同志社大学（3年生）の2名から応募があり、8月25日から27日の3日間にわたって当署で行っている業務を体験していただきました。

今回は、森林が持つ多面的機能や防災面での重要性を目的とした森林整備、治山事業、間伐材を利用した工事箇所などの見学とともに、林産物である「かずら」を用いた橋を観光資源として活用しているという、徳島ならではの取組について学びたいとの要望があったことから、徳島署が「祖谷のかずら橋」に

関して協定等を結び行っている活動の説明や、現在実行中の間伐事業地、そして治山地すべり防止工事事業地などを案内しました。

初日は、署長及び次長から現在の国有林野行政と徳島署の概要を説明し、今回の応募の動機についての懇談、職員紹介ののち、早速三好市東祖谷へと移動しました。

まずは奥祖谷二重かずら橋へと案内し、橋の架け替えの材料となる「シラクチカズラ」が不足していることや、国有林内に植栽地を設けて資源生産に協力していることなど、地元の三好市との連携や取組について説明しました。その後、お昼休みには近くの食堂で祖谷そばを食べるなど、地元食材を味わうことも出来ました。

午後は、現在実行している森林整備事業（保育間伐活用型）の現場へ移動し、事業概要と列状間伐やドローンを用いた工程管理、間伐材の有効利用について説明し、普段目にすることのない林業機械などを間近で見学することで、林業現場の迫力を肌で感じてもらうことが出来ました。



2日目は、祖谷川地区民有林直轄治山事業地を見学しました。

午前中は、樫尾地区の大規模な地すべりを抑止するために行った事業についてパネル等を使用して説明を行ったのち、実際に排水トンネルの坑内に入り、地すべりの要因である地下水を排除している状況を確認しました。その後、現在集水井の追加排水ボーリングを施工中の現場へ移動し、地上から約50mの井戸を覗き込みました。思わず足のすくむ深さと絶えず流れ込む地下水の音、そこに入って作業する職人の姿に治山工事の規模の大きさを体感し学生の二人は驚きを隠せない様子でした。

午後は、地すべりが要因で発生した大規模な崩壊がある西山地区へ移動し、崩壊地内の地上に施工した工法や、今後の地下水排除に向けた工法の全体計画について説

明を受けた後、現在施工している地すべりに対応した鋼製床固工や袋状に玉石を詰めた流路工の状況を確認しました。



3日目は、釜ヶ谷国有林に施工している木製残存型枠の谷止工施工地において、景観に配慮した工法や、間伐材を利用した構造物等も積極的に採用していることについて説明を受けました。

その後、すでに完成している阿津江地区民有林直轄治山事業の大規模崩壊地における復旧状況を確認しました。

平成16年の台風10号により大規模な崩壊が発生して下流域へ甚大な被害を被ったことや、復旧に向けての経緯等から、単にコンクリート構造物を設置するのではなく、景観や自然環境への配慮にも注力しながら、安全性と持続性を両立させている点が強印象に残ったそうです。

最後に、署へと戻り今回案内した職員と署長、若手職員を交えた意見交換を行いました。実習生からは花粉症対策についての取り組みなどの質問を受け、若手職員からは入庁までの就職活動などについてアドバイスを行い、「林野庁で待っています。」との言葉で終了となりました。

後日、実習生2人から、「普段体験することが出来ない森林整備事業や治山の現場を体験することができ、特に山間奥地では豪雨等による土砂災害の危険性が高く、そうした災害を未然に

防ぎ、人々の暮らしを守るために欠かせない役割を担っていること。そして、教科書等から得られる知識とはまた違った現実と迫力を実感することが出来ました。

今回の貴重な体験を通じて、自然との関わりをこれまで以上に意識するようになり、今後の学習や将来の進路を考えるうえで大きな財産になると確信しています。」と報告がありました。本来であれば、徳島署で行っている多岐にわたる業務をもつと体験して頂きたかったのですが、移動時間等の制限から各現場の見学がメインとなっていました。しかしながら、実習生にとって実りある体験となったのであれば幸いです。



愛媛森林管理署

愛媛森林管理署では、8月25日から29日までの5日間にわたり、愛媛大学農学部生物環境学科森林資源コース3回生の5名（男性3名、女性2名）が参加しました。

学生から事前に提出された応募理由には、「インターンシップを通じて森林管理署の業務内容を採用試験前に理解し、就職活動に活かしたい。」といった声が多く寄せられたため、より実践的な内容となるよう現場実習を中心にプログラムを構成しました。

初日は座学を中心に、森林・林業の現状や愛媛署の重点施策、造林・管理業務の概要について説明を行いました。署長による林野庁業務の実体験を交えた講話や、若手職員との意見交換も実施し、当初は緊張していた学生も徐々に打ち解け、「入庁の理由は何？」「印象深かった仕事は？」など活発な質問が飛び交いました。

2日目は日吉原木市場を訪問し、実際の市場業務や木材価格の動向について説明を受け、市売りの現場を肌で感じてもらいました。



日吉原木市場における現地説明

3日目の午前は製品生産請負現場にて、高性能林業機械による集造材作業を見学し、担当職員から、森林整備に伴う木材搬出の仕組みや、地域の需要に応じた採材の違いなどについて説明を受け、素材生産への理解を深めてもらいました。午後は収穫調査の現地体験として、林尺による胸高直径の測定やバーテックスによる樹高計測などを行いました。

また同日には「森林整備部Web勉強会」にも参加し、近藤森林整備部長による「木材産業の基礎知識」の講義を熱心に聴講。学生からは「木材の流通や需要について理解が深まりました。」などの感想が寄せられました。



林道工事の現地説明

4日目は林道および治山の工事現場を訪れ、それぞれの担当者から業務概要、林道の必要性、治山事業の重要性について説明を受けました。

最終日の5日目は、ドローンを活用した業務体験を実施しました。操作に関する講義から始まり、準備、飛行、撮影、自動操縦、オルソ化による画像取り込みまで、一連の流れを体験し、5日間のインターンシップを無事終了しました。

学生からは、「実習を通じて、これまでイメージしか持てなかった業務を実際に見て理解できた。」「愛媛県が優良なスギ・ヒノキの産地であることを知った。」「採材の工夫によって木材の価値が高まることが分かった。」「バーテックスや輪尺を用

いた調査を経験できて良かった。」「林道設計には川との交差点など多くの要素を考慮する必要があることを知った。」「治山事業のスケールの大きさに驚いた。」「ドローンの活用方法が多岐にわたると感じた。」「など、多くの意見や感想が寄せられ、愛媛署の業務や取り組みに対する理解が深まった様子うかがえました。

来年度のインターンシップでは、学生が積極的に質問や意見を述べられる時間を設けるなど、より理解を促進できるよう講義内容の充実を図り、林業への就業につながる取り組みを検討してまいります。



治山工事の現地説明

香川森林管理事務所

香川森林管理事務所では、9月8日から12日までの5日間、立命館大学生1名を対象とした令和7年度夏期インターンシップを実施しました。初日の実習は、午前中に林野庁の業務や香川森林管理事務所の管内概要等について説明を行った後、実習を行うに当たっての注意事項や実習内容についての事前説明を行いました。

午後からは高松市内の石清尾国有林へ移動して、林内での歩行や作業に関する安全指導を実施した後、国有林の活用、境界管理及びナラ枯れ・マツ枯れ被害対策について実習しました。

実習生は、「国有林の境界は古くから設置され職員が適切に管理を行っていること。マツ枯れ等の被害木は葉の色が赤く、林内に多数見られること等がわかった。また、図面を確認しながら林内を移動することで図面の見方について学び、林内に生育する樹木名とその特徴について説明をうけ、具体的な国有林の管理業務について理解することが出来た。」と話していました。



松枯れ説明

2日目は、東かがわ市の中尾国有林で収穫調査実習を行いました。

収穫調査実習では、標準地調査を行うためのコンパス測量によりプロットの設定をすることから行いました。実習生は、初めて測量を行うことからコンパスの使用方法を説明したうえで、実際に林内でコンパス測量により標準地を設定しました。その後、立木調査を始めた途端に突然天候が崩れ大雨となり、林内から急いで林道へ退避しました。実習生は、初めての本格的な林内作業であったことに加え雨に打たれたこともあり、野外作業における厳しさを実感した様子でした。

収穫調査は中止となりましたが、帰路の林道沿いに設置しているシカの捕獲用の小型囲い的な「こじやんと1号」と捕獲を知らせるICTを利用したシステム「ほかバト」の実機を見ながら、シカによる森林被害の状況と有害鳥獣捕獲の取組について説明を行いました。



鳥獣対策「こじやんと1号」と「ほかバト」の説明

3日目は治山グループから、林道、治山事業について座学で概要説明を行った後、まんのう町内の国有林において事業実行中の災害復旧工事箇所、既設の林業専用道及び復旧治山施設の現地において見学を行い、完成までの流れを説明しました。



林道復旧工事説明

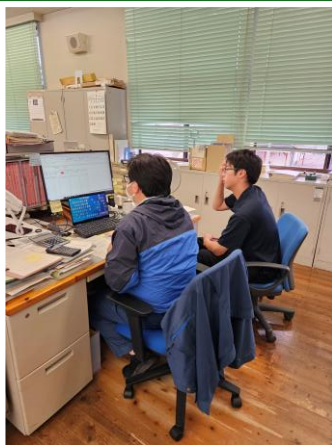
また、復旧治山工事箇所においてはICT活用例について説明を行い、ドローンによる三次元起工測量や三次元出来形管理等の施工管理などについて説明しました。実習生からは、「作業の安全性の向上や将来的な維持管理の効率化等について理解できた。」との感想が聞かれました。

4日目は、まんのう町内天久保国有林で実行中の生産請負事業現場の見学と監督用務の実習を行いました。木材の生産現場で伐採から搬出についての流れや、監督職員の安全指導等による事業現場の労働安全衛生確保の取組について見学しました。その後、一昨年の植付箇所に移動し、ドローンによる造林地のシカ防護柵の点検作業を行った後、徳島県三好市の木材市場

に移動し、木材の計測の仕方、市売りについての説明を行いました。実習生は、「重機を使用した効率的な木材生産の様子を確認することができた。」「人が直接確認するには時間と労力がかかる箇所を、ドローンを用いることによって、従来よりも効率的に確認することができるとを学んだ。」と話していました。

帰所後には、若手職員との意見交換会を行いました。最初は緊張した様子でしたが、就職活動や、就職後の事、日頃の業務内容、休日の過ごし方、職場の労務厚生等についてざっくばらんに意見交換を行うことが出来ました。

5日目は、香川所庁舎内で収穫調査データの取りまとめ実習について、野帳の集計から収穫調査復命書の完成までを実習した後、今回のインターンシップ実習のまとめを行いました。



収穫調査データ取りまとめ

実習生からは「この5日間の実習を通じて得たものは自分の中にあった木に対するアプローチばかりではなく、それ以外にも目を向けることで自らの視野を大きく広げる良い機会になった。」と振り返っていました。

今回のインターン受入れに当たり、御協力をいただきました林業事業体と木材市場の関係者の皆様には、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。今後も継続してインターン等を受け入れ、森林・林業・木材産業及び国有林野事業への理解と関心を持っていただけるよう取り組みたいと考えておりますので、引き続きの御協力をお願いいたします。



嶺北森林管理署

嶺北森林管理署では、高知大学の3年生1名を受け入れ、9月8日から12日までの5日間にわたり実習を行いました。

初日：森林管理の全体像を学ぶ

初日は、次長から林野庁や四国森林管理局、嶺北森林管理署の業務内容や重点施策について説明がありました。午後には総務グループで、職員の給与・福利厚生・庁舎管理・経理事務など、職場を支える重要な業務について学び、さらに、現地での貸付地管理の実際を見学し、業務への理解を深めてもらいました。

また、当日は国有林野部長の視察もあり、「高知の自然！大発見すごろく」についての説明にも参加してもらいました。



「高知の自然！大発見すごろく」に挑戦

2日目：治山事業の現場を体感

大豊町内の民有林で行われている治山事業の現場を見学。平成30年豪雨で被災した箇所の復旧工事や、地すべり防止の排水トンネル内での集水状況など、災害対策の最前線を体感してもらいました。

3日目：木材の生産・販売の現場へ

午前中は長沢土場で丸太の計測や樹種当てクイズを通じて販売業務を学び、午後は皆又谷山の生産現場を見学。高性能林業機械や作業道の作設について、事業体の現場職員から直接説明を受けました。雨天のため収穫調査は資料での学習となりましたが、実務の流れをしっかりと理解してもらいました。

4日目：造林事業の検査に挑戦

一ノ谷山で除伐2類の検査の補助業務を行ってもらいました。標準地の設定に苦労しながらも、無事に検査業務を終えることができました。

5日目：林道改良工事とICT施工を見学

林道の役割や改良工事の現場を視察。ICT施工による省力化や安全性向上について、現場技術者から詳しい説明を受け、実習生も積極的に質問を行っていました。



生産請負現場



長沢土場での検知

午後には若手職員との意見交換会を実施。職務内容や休日の過ごし方、宿舎の様子など、リアルな職場の雰囲気共有してもらいました。

実習生の声

実習生からは、

- ・「自分が働く姿を具体的に想像でき、将来への前向きな意識を持つことができた。」
 - ・「計画通りに進まない場面では、柔軟な対応力が求められると感じた。」
 - ・「職場の雰囲気や意見交換しやすく、責任感を持って仕事に取り組む姿勢が印象的だった。」
- との感想が寄せられました。

当署では、今後も国有林業務への理解を深めていただけるよう、就業体験の受け入れを積極的に進めてまいります。森林に関心のある学生の皆さん、ぜひご参加ください！



若手職員との意見交換会

秋の「緑の募金」街頭募金活動 豊かな緑に恵まれた社会の持続

〈局技術普及課〉

公益社団法人高知県森と緑の会主催により、毎年「秋の募金強化月間」（9月1日～10月31日）の一環として実施されている秋の「緑の募金」街頭募金活動が、10月4日、高知市帯屋町商店街一帯にて行われました。

お天気が心配された日でしたが、出発式の始まる頃には雨も上がり、参加者の皆さんの表情にも安堵の色が見られました。式では、川田理事長より日頃の森林保全へのご協力の感謝と、森林の果たしている役割についての大切さが伝えられました。高知県林業振興・環境部の坂田部長から祝辞を兼ね、「令和10年春の全国植樹祭に向けても、元気で豊かな温かい高知を感じてもらえるように緑化推進に取り組んでいきたい。」とのあいさつがありました。

当局からは神崎総務企画部長と技術普及課職員2名が参加し、緑の少年団やボランティアの皆さんと一緒に、たくさんの人に声をかけながら国民参加の森林づくりの大切さを呼びかけました。



呼びかけに耳を傾け、応えてくださった一人一人の思いに触れる度、緑の募金の輪が少しずつ、確かに広がっていくことを実感しました。

皆様からご協力いただいた募金は、植樹活動や緑化事業、そして子どもたちへの森林環境教育など、未来につながる取り組みに活用されます。今回も、たくさんの方々温かいご協力を通じて、森林を次の世代へとつなげていくことの大切さを改めて感じる事ができました。森を育てる思いが、これから地域の中で広がり、より多くの方々の心に届いていくことを願っています。



ワンツーツリーフォレスト in 小田深山

（愛媛森林管理署）

8月23日、24日、愛媛県喜多郡内子町のソルフア・オダスキーゲレンデにて、「ワンツーツリーフォレスト」標高1,000mで1,000名が集う林業学習型のアウトドアイベント「」が開催されました。

このイベントは青少年の健全育成、山林・森林との親しみを、持つきっかけの創出や、これらを通じた担い手育成、また家族との触れ合いの場を提供することなどを目的に、小田深山溪谷に位置する森林を活用した林業にまつわるアウトドアイベントです。

イベントには、立木の伐採見学や高性能林業機械による丸太積み体験、薪割りや木工体験など数多くのブースが出席し、2日間です。昨年度に続き1,200人を超える来場者数となりました。

両日とも台風の影響が心配される中での開催となり、2日目午後から天候が悪化したものの、例年より涼しいこともあり、来場された方々は色々なブースを巡り、イベントを楽しんでいました。

愛媛署からは、参加者に森林に興味を持ち、森林の大切さを理解してもらうため、木工教室と土壌浸透実験を行うブースを出展しました。



木工教室の様子

木工教室では、四角形や五角形のほか、愛媛県のゆるキャラ「みきゃん」など様々な形の木の板に、木製昆虫キットや枝等を貼り付け、色を塗り仕上げるとオリジナルプレートを製作してもらいました。近くで行われていた丸太切り体験のチェンソー音をBGMに、参加した大人も子供も真剣な眼差しで、思い思いの作品を完成させ、中には満面の笑顔で「みてみて！できたよー！」と職員に見せてくれる子や、「昨日、とても楽しかったから。」と2日連続で来場し「今日

は何かいいかな？」とワクワクし、キラキラ目を輝かせながら木製昆虫キットを選んでいる子もいました。



土壌浸透実験の様子

また、土壌浸透実験では、参加者に森林の有する土砂災害防止機能や水源かん養機能を分かりやすく伝えるため、木が生えてない土だけの模型と木々が生えている模型を用意し、それぞれジョウロから出る水を雨に見立て、土砂の流出の違いや下に溜まった水の濁りの違いを観察してもらいました。木が生えてない土だけの模型に雨が降ると表面に川ができ、段々と川幅が大きくなり、最終的に表面に置いていた家や車の模型までもが流れる様子を見て、「ああー」と思わず声を上げたり、しげしげと水を流した後の模型の違い

を観察するなど、様々な反応があり、木々があふれる森林の重要さを改めて知る良い機会になったと思います。

当署では、今後もこのようなイベントに積極的に参加し、多くの方に森林・林業に興味を持ってもらえるよう、取り組んでまいります。



参加者の作品



刃物の取扱い研修を実施

〈四万十森林管理署〉

四万十森林管理署では、刃物の取扱いに起因する災害事例が発生している状況を踏まえ、8月26日に、手工具を使用した作業に関する知識の向上を目的に、新規採用2名を含む15名の職員が参加し刃物の取扱い研修を実施しました。

署庁舎において、林美樹也森林官と小松浩地域技術官の2名を講師に迎え、研修参加者を、鉋の研磨経験のない職員と、経験しているが慣れていない職員の2組に分かれて研修を開始しました。研磨の経験のない職員については、小松講師より、初めに、鉋の刃には片刃・両刃の種類があることや、鉋の刃の状態によって研磨する砥石を使い分けること。また、研磨時の鉋の持ち方、砥石に対して一定の角度で刃を当てることなどの説明がされた後、実際に鉋の研磨の指導を受けました。研磨の経験のある職員は、林講師の指導により、自分の鉋を3種類の砥石を使い分けながら安全かつ刃こぼれしにくい刃の付け方について説明を受けながら研磨に取



安全に作業を行うための指導

り組んでいました。鉋の研磨後、入野松原内の国有林に場所を移し、鉋や鋸による安全な作業について指導を受け灌木の除去やつる切り作業を行いました。

参加した職員からは、「これまで刃物を研いだことが無かったが、今回の研修で刃物の研ぎ方を知ることができた。これからうまく研げるように練習していきたい。」「今後、刃物を使用するときは、今回の研修を活かし、怪我の無いよう注意して使いたい。」などの感想がありました。

指導にあたった小松講師からは、「よく切れる刃物を使うことで、無駄な力が入ることなく疲れずに作業ができ、それにより手元が狂うことも無く、災害の減少につながり、そのことを意識して研磨してほしい。」との話がありました。実際に体感した若手職員の技術の向上を図ることができた研修となりました。



鉋研ぎの実習の様子



「高知の自然！大発見す「ごろく」 を活用した森林教室を実施

〈嶺北森林管理署〉

9月16日に「高知の自然！大発見す「ごろく」」を活用した森林教室を、高知市立一ツ橋小学校の5年生42名を対象に実施しました。

すごろくを活用した森林教室はこれまで7回実施しており、一ツ橋小学校は昨年に続き2回目の実施となりました。

授業の冒頭ではスライドを使い森林や林業、森林管理署の仕事についての学習を行い、その後、4〜5人の班に分かれてもらい、職員が一人ずつ付いてすごろくを始めました。

本すごろくは、小学生が高知県内各地の自然環境や地域にまつわる言い伝えを楽しみながら学習できることを目的として、令和6年度に嶺北署の若手職員が中心となり作成したオリジナルすごろくです。内容は、桂浜をスタートとして、県内を西から東へ一周するように、柏島・大堂や、四国カルスト、白髪山、千本山、牧野植物園などを巡ってゴールの高知城を目指す内容となっています。

職員の手描きイラストや、自然を紹介するマスの説明文、一回休みがあったり、ルートが分岐するマスがあったりと、皆が同じコースを回らない仕組みとなっており、サクラの枝から作ったコマを使用し木の感触を感じてもらうなど、随所に工夫を凝らした、全70マスのコースとなっています。



生徒は「ここ知っている、行ったことある。」「こんな木があるんだなあ。」「やったー!」「くやしいなあ。」などの感想を口にしなが、盛り上がりつつすごろくを楽しんでくれました。

すごろくを終了した後は、すごろくに登場した各地を現地の写真を使った「すごろく解説ガイド」により解説を行い、行ったことある場所や行きたい場所、気になった場所について、より興味をもってもらうことができ、子供たちがあきることなく、大変有意義な森林教室となりました。

授業後に実施したアンケートでは、
「イラストが賑やかで見ているだけでワクワクした。とても満足できた。」
「説明やイラストで分かりやすく、行ってみようと思う内容ですごく良かった。」
「みんなで盛り上がりながら自然についての知識が増えて良かった。」

「森林管理署の人たちが森林の環境を守ってくれていることが分かった。」
「すごろくでいろんな豆知識が知れたので、帰ってお母さんに伝えたい。」

等、多くの感想をもらいました。今回の授業を通じて、小学生が楽しみながら自然や森林について学べたことで、県内の魅力ある様々な自然環境にさらに興味や関心を向ける良いきっかけになったと考えています。

今後も高知県全体の小学校へのすごろくの周知や配布に努め、森林環境教育の更なる発展を目指していきたいと考えています。



すごろくは
こちらから見られます

津野町2校合同森林・木工教室を開催

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉
〈四万十川森林管理署〉

○概要

9月4日に黒潮町上川口の高知県立幡多青少年の家において、津野町の葉山、中央小学校の5年生33名を対象に森林・木工教室を開催しました。

今回は、津野町教育委員会が行う2校合同自然体験型合宿の中で、「ものづくりの楽しさ」と木に触れる心地良さを体験し、森の恵みに感謝する心を育てたい。」との依頼を受け実施したものです。

○実施内容

森林教室では、紙芝居教材「森林からの贈り物」を使い森林の大切な役割の学習を行いました。

紙芝居のページをめくる中で、「私たちの生活のあらゆる面で欠かせない木や木材は、家を建てるときの主な材料となっていますが、皆さんの身の回りで木が使われているものはどんなものがありますか?」と質問すると、「ノート、紙、タンス、家の柱など」と元気に手を挙げて答えてくれました。紙芝居を

通して、木や木材は私たちの暮らしを豊かにしてくれる物であると同時に、森林が私たちの生活に無くてはならない色々な物を生み出し、清らかで豊かな水を育み、空気をきれいにしてくれるなど、大切なはたらきをしていることを理解してもらいました。



紙芝居で児童たちと質疑応答の様子

お楽しみみの木工教室、木工クラフト（山・川・海で繋がっている生き物の姿を木工クラフトで創作する壁掛け作り）では、作り方や注意点を説明してから、見本を参考にキリ材やヒノキ材を使った魚や水生動物、昆虫等の各パーツにポスターカラー等で自由に色を塗ったものを、スギやヒノキの板にアレンジを加えて接着剤で貼り付けるなど自由製作としました。貼り付けす

るパーツは、貝殻、川石、小枝（津野町不入山の四万十川流域の国有林に有るクロモジ、ウツギなどを使用）、木片等の自然素材やビーズ、フェルト等を使って装飾をちりばめ、最後に板にヒートンとカラーヒモやリボンを取り付け、各々が思い思いの個性豊かな作品を完成させました。



木工クラフト作りの様子

○おわりに

児童の代表から「森林の大切さがよく分かりました。今後山・川・海の身近な自然を大切にしていきたいです。いろいろな準備をしていただきどうもありがとうございました。」とお礼の挨拶がありました。

今回の取組により、森林・林業への理解や興味が湧き身近なものとして児童達に感じ取ってもらえたのではないかと考えます。今後も教育委員会など教育機関の要請に応え、四万十川森林管理署と四万十川森林ふれあい推進センターでは、引き続き人材育成の面からも連携して児童・生徒を対象とした森林環境教育への支援活動を推進していきます。



作品できたよ

宿毛小学校で森林環境教育を実施

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

〇概要

今年度も宿毛市立宿毛小学校から森林環境教育（森林・木工教室）の要請を受け、9月11日に、3年生A組とB組の計59名を対象に実施しました。

〇森林教室

森林教室は、今回も地域での地球温暖化防止の取り組みを推進している高知県地球温暖化防止活動推進グループの「うみのこども」の中谷みどりさんに担当していただき、同じ内容でA組を午前中に、B組を午後 realistically 実施しました。

「森林のやさしさをしよう」と題して、児童たちに話しかけるかたちで、空気をきれいにする、水をつくる、生き物のすみか、災害を防ぐなどの森林のはたらきを説明し、森と人間とあらゆる生き物など、お互いが助け合えるたくさんのやさしさが一つになって大きな森という自然ができていること、山・川・海のつながりについてわかりやすく説明してくれました。



うみのこども、中谷さんの森林教室の様子

〇木工教室

木工教室では、カナヅチやクギ、接着剤の使い方や木工工作の作り方、注意点を説明した上で、ヒノキムク板を使用した「ハッピー小箱（鉛筆立て）」作りを行いました。

釘打ちの際に、ヒノキの香りが木製品特有の手触りの良さを感じてもらいつつ、最後に、各自が製作したハッピー小箱に自由な発想で貝殻や木の実、木片、小枝などで飾り付けをして作品を完成させていました。

釘の本数を増やして挑戦した児童も多くいて、失敗は成功のもととも言いますが、「トントントン、トントントン、トントントン・・・」という音を教室中に響かせながら、時には「あ！失敗した。」と釘抜きやニッパを使って釘抜きもして、楽しく取り組みました。

〇おわりに

児童の代表から「森林など身近な自然を大切にしていきたいと思っています。ハッピー小箱を作るのはメツチャ楽しかったです。うまくいかないこともあったけど友達やおじさんが助けてくれて、世界に一つだけのハッピー小箱ができました。どうもありがとうございました。」とお礼の挨拶がありました。

後日、学校より教職員アンケートの送付があり、「森林のはたらきなどについては、上級生の学習内容に出てきますが、身近な生活の問題として森林の大切さを考えていたと思います。また、ハッピー小箱の工作については、たくさんさんの材料の中から自分の好きな物を選んで、みんなが作ったすてきな作品ができました。どの子もいきいきと活動に臨むことができ、うれしそうに持ち帰っていました。」と評価していただきました。

当センターでは、引き続き学校等教育機関の要請に応え、教科書ともリンクした児童・生徒を対象とした森林環境教育への支援活動を推進していきます。



完成したハッピー小箱



ハッピー小箱作りの様子

四万十森林管理署三原森林事務所は高知県西部にある三原村全域と宿毛市の一部の国有林3,857haと官行造林20haを管理しています。

三原村は渭南半島の中心地に位置しており、四万十市や宿毛市、土佐清水市へのアクセスの良さにも恵まれています。豊かな水と寒暖差が大きいことで育まれる三原米を始め、その三原米を使った「どぶろく特区」でも有名です。

管内の国有林は面積の9割を人工林が占めており、その多くが収穫期を迎えて主伐や間伐を実施しつつ、豊かな水を絶やさないよう水源涵養機能のさらなる発揮を目指して森林整備を実施しています。

また、平成31年度には三原村と四国森林管理局との間で「三原米の里多様な森林づくり協定」を締結するとともに、令和2年度には多様な森林づくりにおける問題点や施業方法を見え



三原森林事務所管内
”見える化プロジェクト”

る化することにより関係機関と情報共有を図ることを目的として、多様な森林づくり“見える化プロジェクト”区域を設定しました。この区域では、「三原米の里多様な森林づくり協定」ゾーン・「三原村水源地」ゾーン・「多面的機能発揮」ゾーンに分けて、それぞれ目標林型に沿った形での施業を実施することとしており、毎年、市町村関係者や林業事業体などを対象に現地検討会を行い実施状況の説明をするとともに、複層林施業や間伐実施に対する意見交換を行っています。

現在、当事務所は森林官である自分一人で勤務していますが、各種調査や境界巡視などの現場業務については近隣の森林事務所や署職員の応援を得ながら実行しています。

前述したように三原村は森林に対する関心が非常に高く水源としての貸付地も多いことから、今後とも地域の方々と連携・協力しつつ、現場第一線で頑張っていきたいと思っています。



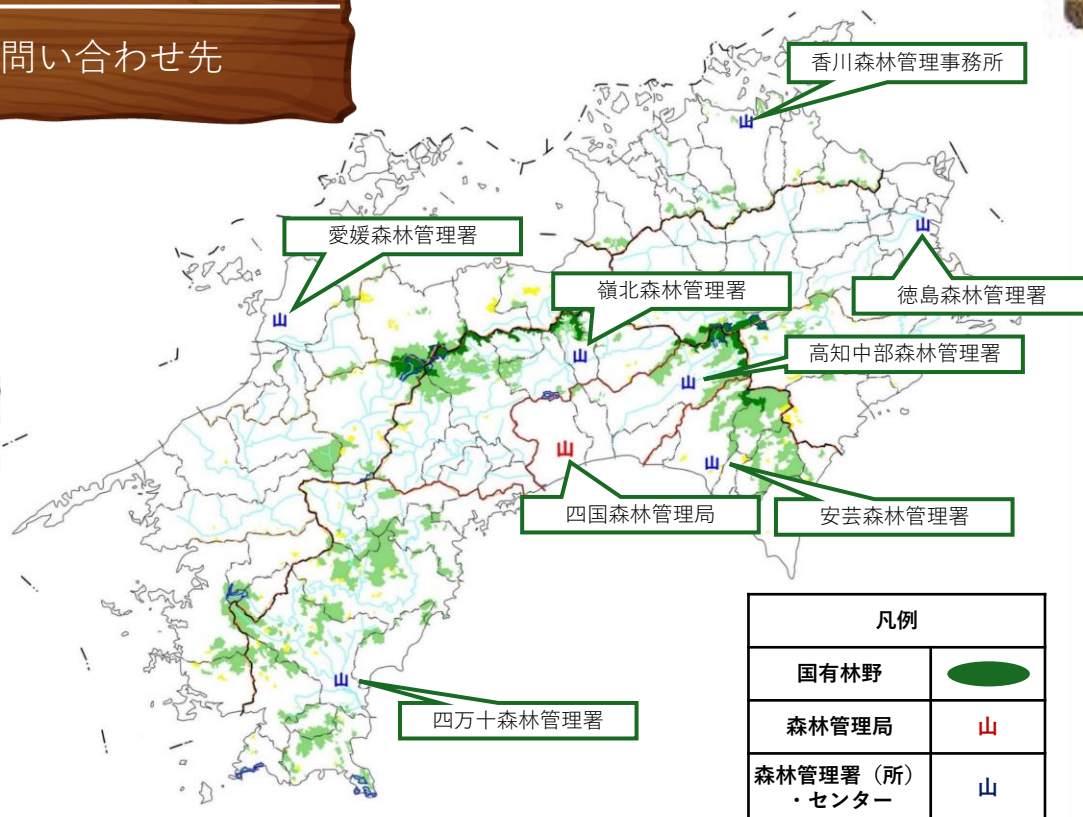
三原森林事務所管内
”災害対策（単木保護）”



中村小学校（為末公園）_楠説明

四国森林管理局・署（所）

お問い合わせ先



四国森林管理局・署（所）問い合わせ先

名称	住所	TEL
四国森林管理局	高知県高知市丸ノ内1-3-30	088-821-2210
徳島森林管理署	徳島県徳島市川内町鶴島239-1	088-637-1230
愛媛森林管理署	愛媛県松山市朝美2-6-32	089-924-0550
四万十森林管理署	高知県四万十市中村丸の内1707-34	0880-34-3155
嶺北森林管理署	高知県長岡郡本山町本山850	0887-76-2110
高知中部森林管理署	高知県香美市物部町大栃1539	0887-58-3131
安芸森林管理署	高知県安芸市川北乙1773-6	0887-34-3145
香川森林管理事務所	香川県高松市上之町2-8-26	087-866-6622

入林される皆様への注意事項

- 国有林に入林する際には、以下の事項について注意してください。
- ① 草木やキノコなどの採取、樹木の伐採や損傷をしないでください。
 - ② 自然保護などのために立入が制限されている箇所へは入らないでください。
 - ③ ゴミは持ち帰りましょう。
 - ④ 枯木や枯れ枝は危険ですので、近寄らないでください。
 - ⑤ タバコなど火の取扱いには十分注意してください。
 - ⑥ 林道は未舗装箇所が多数あります。通行の際はご注意ください

登山は自己責任です。天候や登山情報を確認し、十分な装備で入山してください。また、ご家族へ行き先を告げるとともに、登山目的地を管轄する警察署等へ登山計画書を提出してください。